

モデル事業名	湯布院伝統の「馬」が繋げる、教育・福祉・農業、市民活動の輪づくり事業 ～2005年合併の由布市三町の絆を深める～
活動団体名	特定非営利活動法人 インフォメーションセンター 由布院事業所
ホームページ	
所属/ 担当者名	由布院事業所代表 田井修二
連絡先	Tel, 0977-84-5301 minami-kaze@blue.ocn.ne.jp
活動地域	大分県由布市全体 主に湯布院町

### ● 活動地域の概要

観光地として名高い湯布院温泉を擁する由布市は、1975年（当時は3町村の合併前）には45%だった3次産業の就業人口が2005年には71.2%にまでふくらんだ。これは、隣接する別府温泉とは対照的に、田園風景や辻馬車運営・和牛飼育の運動など、農業資源を活かして温泉観光地としての付加価値を高め、年間観光客数を400万人にまで増加してきたという、観光業、農業の業種の枠を超えた、湯布院地域の努力があった。ところが観光客数の増加は、リゾート地区としての大規模開発なども誘致し、現在は、町に人があふれるという、いわゆる観光地化が一部では進み、70年代当初に特徴として掲げてきた自然の豊かさ・農村の美しさは崩壊しつつある。さらに70年代当初は約4割を占めていた1次産業就業人口が2005年には12.4%にまで落ち込み、現在は、農地の荒廃化を食い止めることができない状況だ。

また、年齢別の人口推移をみると、1975年当時、65歳以上の人口の割合は、全体の11.5%に過ぎなかったが、2005年には26.7%にまで上昇し、高齢化は深刻である。これらは、さまざまな現象を生み出しているが、たとえば、最盛期は700頭を超す牛が肥育されていた「牛一頭放牧運動」も現在は終わり、農業者の高齢化などで、現在の和牛肥育数は200頭程度にまで減り、入り会い牧野が利用されず荒れ放題になった放牧地もある。美しい景観を誇っていた由布院盆地を囲む放牧地も、観光資源としての価値を失いつつある。



由布市面積 ; 319.16 km<sup>2</sup>



荒れる不耕作地

田園風景を特徴に栄えた観光地に増える休耕不耕作農地。農業人口の現象。高齢化。

地域の問題は多くあるが、湯布院町、庄内町、挾間町の三町が合併してできた由布市は、合併反対運動のしこりも未だに残り、足並みがそろわない。

ここからどのような明るい未来を引き出せるだろうか？ということが本提案事業の命題である。

### ● 活動地域の課題

活動を実施する課程において不登校や発達障害の問題を抱えている方からの相談が寄せられ、これらの問題に対応するニーズは高いと考えられる。しかし対処の仕方は行政や教育関係も含め、これから取り組まなければならない。また、休耕不耕作地は増加し、しかも手つかずであるため、荒廃化が進んでいる。数カ所の休耕田の借り上げを試みたが地元の慣習的になかなか難しいものがある。単に農業生産だけでない土地の利用～コミュニケーションの場として休耕地の活用については、行政も絡んだ対策が必要だと考えられる。

### ● 活動の内容

・平成21年度

8月から12月まで

○保育園など馬とのふれあい体験訪問、5回

○ボランティア養成講座、3回

○ホースセラピーの実践～ウマと命のふれあい体験（地域内トレッキング含む）4回  
を実施してきた。

## ● 活動の成果

○まず、ホースセラピー（正確にはホース・アシステッド・セラピー）という概念と活動を地域の方々に知って頂いたこと。そのことによって、特に子供たちの中や地域の中に、これらのセラピーを必要とするニーズがあることが知られて来たことが第一の成果と思われる。

○次にこの活動に参加したいあるいは協力したいと思って申し出られる方が現れたこと。

○さらに、具体適な活動の場として、地域に休耕田や牧野があり有効利用される可能性が出てきたこと。

など、行政や教育関係また観光関係の方々がこの活動の必要性を理解し始めた点にあると思う。



### ・平成21年度

○ 保育園・小学校のふれあい体験＝ウマを道具としてではなく、命のある生き物としてふれあい体験する。馬にのった経験のある子供も全く違った体験をすることができた。さらに、父兄や先生たちも新たな発見が多かったため、次回また別の施設での「ふれあい講座」の依頼が来ている。

○ ボランティア講座＝10数名が受講。単なるお手伝いではなく、馬を媒体とした活動に対する最低限の知識と理念を学んでいただいた。今後の活動に重要な地域ボランティアスタッフに育って行ってくれると思われる。

○ ホースセラピーの実践

1) セラピー＝腰痛に始まり、子供たちの発達障害や登校拒否、アトピーに至るまで幅広くセラピーを行っている。馬と接することで本人の社会的存在意義としてのコミュニケーション能力の開発や健康増進に役立つ。

2) 地域活動として＝セラピーの一環で「馬との散歩」があり町内ののどかな川土手を馬に乗ったり引いたりしながら散歩トレッキングをする。地域の方々とふれあいが直に感じられる。

## ● 今後の課題及び展望

### ・課題

○特に子供たちのニーズを実感。当地区はかなりののどかな環境ではあるがグローバル化～TVやファーストフードなどに感化されるのは全国共通であると感じる。

○地域へ活動が浸透するにつれ、さらに充実した活動をするにはもっと本格的で広い専門牧場の必要性を実感。

○同時に専門の人材がさらに数名必要となる。

### ・展望

○子供にだけ目を向けても身近な環境である家族や教育関係者の方々の理解が大事。関係の方々へ専門の知識を普及する必要がある。2月の土田氏の講演会に多くの関係者の出席を。

○市と協力してあまり使われない公園や高齢化で維持の難しくなった広大な牧野の維持管理に馬を使ったシステムの導入を即したい。